

学生社長育成プロセスに対するCVM*

CVM for the Process of Teaching Program in the Student Entrepreneur Planning*

平松登志樹**

By Toshiki Hiramatsu*

1. はじめに

CVM(Contingent Valuation Method)には、仮想的なものでも計測可能という利点¹⁾があるとされる。本研究では、実体のないものとして、刺激を受ける知的な活動のプロセスへの支払い意思額を考える。買い物が好きで、よく店に行くが、あれこれ迷って結局買わない。庭のデザインを楽しく考えるが、できあがったとたん、ほとんど見向きもしない。これらの例のように、結果として何も残らない実体のないものでも、結果的に何もしなかったと同じであっても、そのプロセスにおいて便益は発生する。

2. 研究の目的

本研究では、刺激をもたらす知的なプロセスの便益を計測することを目的とする。このプロセスには、イメージを膨らませる力があつたり、また新たな発見があり、期待が裏切られることもあり、全く予期しなかった大きな感動も、落胆、悲劇もある。カオスの縁²⁾の評価かもしれない。

3. 従来の研究と本研究の位置付け

ポストモダン社会は、脱物質主義的価値が重視される社会であるとされる³⁾。脱物質主義とは、人々の価値観が物質的な生活満足を得るよりも、自己実現や非拘束感など生き方を重視する傾向が強まっている状態を表す³⁾。財の消費や貨幣の保有⁴⁾の効用以外にも、文化活動や環境保全行動等で見られる自分の体験・経験(ドラマ)の便益も重視される。

*キーワード: 意識調査分析、調査論、環境計画

**正員、工博、豊橋技術科学大学

(愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1、

TEL0532-44-6952、 e-mail tora@hse.tut.ac.jp)

また決して好ましくはないが、いじめ、虐待、セクハラ、ストーカーの便益もありそうで、これらの支払い意思額は、当事者から全額徴収して社会的な対策の費用とすべきである。しかし従来の研究では、実体や結果(情報公開)と結びつかないプロセスの評価はなされていない。

本研究では、学生社長育成というプロセスをとりあげる。学生社長はカオスの縁である。もし、学生社長が成功すれば、達成感という満足、そして配当等の所得効果の影響が生じ、知的な活動のみを評価することは困難である。失敗した事例だからこそ、刺激をもたらす活動のプロセスの評価がしやすい。また「このアイデアや知的な刺激にいくら支払いますか」という問いかけでは、被調査者が、どれだけの所得増を考えているかもわからず、仮に所得の増額を明示しても答えづらい。

環境の価値の計測においては、CVMで計測する事例は急増している¹⁾が、これも、刺激の価値の分離を全く行っていない。通常、環境の価値は、利用価値と存在価値の2つに大別できるとされる¹⁾が、この知的な活動は、両方に含まれる。利用時にも発生するし、自分の認識の幅を広げるものは、存在価値の中に含めるべきだろう。

ある知的な活動は存在価値を高める。ひょっとしたら存在価値そのものであって、原風景を思い浮かべることのできる物語や民話があればよく、現実の原風景の空間は必要ないのかもしれない。

また利用価値も高めるものもある。このことを考えることによって知的な刺激を与える具体的な設計への指針も得られるのではないか。思惑通りの「利用」と裏切られる「性悪」^{5)、6)、7)}の組み合わせがキーポイントとなろう。

4. 育成のプロセス

(1) 壮大な構想⁸⁾

大学周辺に多くの学生社長の会社が立地する構想は、最初の段階でつまづいた。有限会社ウインディーネットは、平成8年6月に設立したが、学生は退学して学生社長は消えた。2001.1.15日現在、登記簿謄本上会社は残っているが、この時期何も企業の活動していない。

(2) 産学協同での育成の内容

TLO (Technology licensing organization)⁹⁾ は、1998年4月誕生した。しかし、学生社長が育てば、TLOは必要ない。学生は、法律家にも相談する(実際今交通事故で訴訟。弁護士と相談中。)。国の補助に多くを頼るより、自己責任をもち、自由で小回りがきく。個別の工夫もできる。カオスの縁が生まれるには、異分野の人が協同で学生を育てるという産学協同の形が好ましい。協同でお金を貸す有限会社設立は、きわめて常識的なアイデアである。

しかし難しい面もあった。学生の平松研究室配属は失敗した。彼は電池の研究を希望したが、当時、学内には、その分野の研究者はいないと悩んでいた。また「計画」といえば社会主義国家の建設ですかといわれた。最初は好きにやらせて、忘年会等の機会があるたび、話し徐々に理解を深めてもらおうと思った。社会工学¹⁰⁾、¹¹⁾科出身の教官に、経営学という細分化された分野の非常勤選びを、やらせようとした大学の方針にも問題はあがあるが、結果的には面白くもあったし、また悲しい思いもした。

当方の具体的なシナリオはあった。遠隔地授業等の教育や研究上必要なソフトの作成を時々依頼した。毎年50万円くらいの仕事は用意できた。奥の手もあった。当時平松研究室には、ソフト作成プロの修士の学生がおり、会社は彼をアルバイトとして採用できた。平松にもアルバイト代の一部が譲渡された。経営学の先生も時々仕事を与えた。それ以外は自由放任の方針だった。事故の前は、爛々と目を輝かせて将来の夢を語り、早く2000万円ためて、次の大きな仕事をしたいといって、皆を仰天させたこともあった。学生社長は、大学受験、公務員試験、司法試験等の各種学習ソフトの基礎ソフトが売れるといっていた。もう市場に出ているではないかといった

が、全然違うものらしい。

ただ、現実の活動としては、多くの雑用が発生した。平松の部屋に業者から電話やファックスが多く届き、その通達をするのが、面倒でもあったし、携帯電話がないときは、苦勞した。学生の方も業者との交渉にストレスも感じ始めていた。最初は通帳を平松が管理していたが、途中からそれを学生に手渡したことも、問題だったかもしれない。

退学の直接的な原因は、オートバイであった。元社長は、交通事故をおこした。2度である。1度目は軽かったが、嚴重に注意した。彼は、忠告を無視して、また会社の金で新品のオートバイを購入して、今度は深刻な事故にあった。字も書けなくなった時期があった。現在、接触した車の所有者と係争中である。起業家の勉強に加え、訴訟の勉強もしている。しかし、学生にとって、訴訟と会社の二束のわらじは大変だった。また、一緒に会社を盛り上げてきた仲間も卒業した。

そして、リハビリのため休学を繰り返し、授業についていけなくなり、最後には学部で退学届けを提出した。追い討ちをかけるように、2000年のある日、資金の回収を求められた。その額200万円は、当方にも大金であり、簡単には工面できない。いろいろ金策を考えたが、大学を退学した彼は「たたみだい」といつてきた。当方も、精神的に弱っていた¹²⁾時があり、適切な助言もできなかつた。申し訳なく思う。

5. 結論

経営学社長と、平松、資金を援助した会社の社員の3人と、元学生社長と、その元学生社長へ、支払い意思額を郵送により調査した。取引先銀行へは、出向いた。またプロセスから受ける知的な刺激は人によって違うと思われるから、当方のプロセスへの感じ方を明示しなかつた。

(1) 平松の支払い意思額

性悪な現実に翻弄された最悪のシナリオでも、平松の支払い意思額は100万円年間(年間所得1700万円)であることがわかつた。これは楽しみと悲しみが入り混じったトータルの額である。爛々と目を輝

かせて将来の夢を語り、皆を仰天させた思い出は、大きな効用があった。また、学生社長育成という内容で朝日新聞にとりあげられたことや基調講演の機会も効用を押し上げている。

平松の従来における便益計測値と比べると、親水公園の整備効果¹³⁾、¹⁴⁾、¹⁵⁾や千葉県松戸市の水洗化¹⁵⁾、¹⁶⁾下水処理水の水源や河川への流入回避¹⁵⁾、¹⁶⁾に次いで、高額である。しかし初期値のバイアスの可能性はある。貸した50万円に影響されているかもしれない。この額は、この学生起業家育成をしようとした時点での支払い意思額といえる。なお会社から得たお金は5万円、50万円の金銭貸借消費契約書は捨ててはいない。

(2) 元学生社長へ郵送調査 (2000.1.10送付)。

2001.1.22調査票とメールのはいったフロッピーが送られてきた。貸し借りのあった人の連絡先も求めたが、それはなく、元学生社長自身の報告であった。

まず、利益は350万円、損失は450万円、支払ってもらいたい額は100万円であった。現在の所得は0貯蓄額は0であるので、活発な活動はしていないことがわかる。所得も貯蓄も0なので、正確な支払い意思額は計算しようがないが、彼の手紙を見ると、もし、所得や貯蓄があれば、相当高そうである。以下彼の手紙を示す。

「新年、明けましておめでとうございます。

連絡が送れて申し訳ありません。年明け早々から今年勤める会社の研修が始まりまして、先生のアンケートのお返しが遅れてしまった事を重ねてお詫びします。

アンケート以外にも先生にお伝えしたいと思ったことがありましたので、「起業」において私が感じた事を文章にしてみました。

私がベンチャーを活動していた時に感じたことは「経営能力の低さ」でした。どんなに良い企画を考えたとしても、それが①採算に合うものなのか？②社会的に必要な物か？を客観的に考える事の難しさに何度か直面しました。更に、会社として運営して行く為に、自分の会社で行っていない事にまで仕事の範囲を広げなければならない場面に何度か直面しました。上記の①、②以外に苦労したのが「営業」でした。当社を利用して頂けると予想される「お客様（企業）」に対して「仕事をください！」とお願いに行くのです。その場面で、お客様のニーズを瞬時に感じて、仕事に結びつける能力が問われます。しかし、学生時代ではアルバイトの経験しかない為、このような「営業」の能力を磨く機会が無かった様に思うのです。

競合する会社に負けて、仕事を取れなかった事ばかりでした…。その時の経験から、「いかに良い企画でも営業する事が出来なければ、商品や技術の光っている部分を理解して頂く事ができない！」日本の社会風潮を感じました。良い物を作ったら、次はそれをお客様に使って頂き「商品の良さを理解してもらう」活動が必要になるのです。

私はその事に気付き、今年の春から企業に入って「営業の力」を身に付けるべく、商社に就職しました。我社、ウインディーネットごと引き受けて下さる商社を見つけ内定を頂きました。「ベンチャーを復活させたい！その為に、営業の能力を磨きたい。」という私の将来の目標を聞いた上で内定を頂いた上に、「面白い企画だったら、我社もサポートするよ！」と出資の可能性まで示唆されました。既に6社の社内ベンチャーが存在している所から見ても口先だけの話とは考えにくいのです。しかも、社長をしている面々が20～30代だけだという事実を目の当たりにして、今春からの仕事に対する意欲は最高潮に達しています！！

平松先生も新しい試みにチャレンジされる様ですね！御活躍をお祈りしています。

今の現状だけを見ると私の試みは失敗したと捕らえられがちですが、失敗の中には非常に貴重な経験が沢山あります！この様な経験をさせて頂いた平松先生なら御助力下さった多くの方々には感謝しきれない程の念を感じています。先生にお借りしているお金も、毎月少しではありますが確実にお返ししたいと思っています。方法は違っても目指す目標は同じです。居酒屋で語った夢は今も変わっていません。一緒に「アジアの帝王」目指していきたいと思っています。」

平松の前述の支払い意思額は、2001.1.15日以前に算出したものであり、学生社長の育成プロセスに関する値であるので、その後の活動には影響されず変わりはない。しかし、その値はぶるぶると上方にゆらぎそうである。

(3) 資金提供者の支払い意思額

2000.1.9.会社社長自宅へ調査票を郵送。CVMに関しては、学生社長と同じ意見であった。また、専門家でないと難しいのではないかという意見も述べた。アイデアの提供者である社長の調査への回答が拒否された理由は、結果と結びつかないと評価できない効用の構造になっているという理由が考えられる。また、楽しいこともあったが、学生の交通事故、訴訟という辛く悲しいこともあり、トータルの満足感をとらえることができなかったことが感じられる。

(4) 口座の開設をした銀行

口座の開設だけで、銀行側との融資等の関連がなければ、ウインディーネットが倒産しても、全然関係ないとのことであった。出入金の明細は守秘義務のため教えてもらえないとのことであった。

(2001.1.9.)入出金等に関わる業務も特に発生することもない。したがって、ウインディーネットについては、評価のしようがないという意見であった。

一般的な意見を求めたら回答は2001.1.11 消印の郵送での結果金額の記入欄はすべて空白であった。自由回答欄に「銀行には守秘義務がありますので、学

生研究のためという意向はわかりますが、質問に答えることができません」と記入されていた。

この記述から学生起業家育成という企画への支払い意思額が感じられる。ただし、プロセスだけではなく結果への期待も含まれている可能性はある。

6. 今後の展望

(1) 理論的定式化

今後の課題である。知（刺激をもたらす体験や経験）の効用は、実際の消費行動の結果としての財の種類やその消費量に含まれる形のものも多いと思われる。しかし、顕在化した消費行動の結果にあらわれない便益は発生していると思われる。

効用関数の理論的定式化において、知と財の関係を分離した形で表現することが、重要なことかどうか、現実の活動を的確に説明しうるかは検討中である。結果がともなわないと、アイデアはなかなか正に評価されないところを見ると、今の効用関数の行動では分離できないような形になっているのかもしれない。2つのタイプに分かれるのかもしれない。本人の活動ではなく他人の活動から刺激を受ける例を述べる。元阪神の新庄のメッツ入りという意味決定という刺激だけで、メジャーでの結果がどうなろうと、支払い意思額が発生する人と、結果を見ないと評価しない人がいるだろう。実際は企業のスポンサーはつき、テレビのCMに新庄が2001年2月ごろに登場した。

また、知的な刺激の経験なるものを評価するには、時系列の動学的な効用関数にするべきかもしれない。知的な刺激に伴う効用増は減衰するかもしれない。ひょっとすると、従来の効用自体も、ある種の経済行為をおこなった後に、その値が減衰し、以前の水準にもどすためには、知的な刺激が必要なかもしれない。

(2) 失敗の事例を増やすこと

知的な活動の評価には、失敗の事例のCVMが重要であり、学生起業家育成等の知的な活動への参加の

増大と、その失敗例の情報公開が望まれる。事例が増えれば、様々なパターンの知的な活動のリアリティのある評価ができる。所得増等への漠然とした将来への期待を含めた、イメージだけのぼんやりした評価にとどまらず、あるアイデアのもとで、性悪な現実と向き合っ試行錯誤した実体験から感じ取られるリアリティのある支払い意思額を評価したい。大言壮語の平松からも今後また失敗例が生まれるかもしれない。

参考文献

- 1) 肥田野登、環境と行政の経済評価：CVM（仮想市場法）マニュアル、編者：1999年、勁草書房
- 2) 今田高俊、橋爪大三郎編著、社会理工学入門、日科技連、pp.42-43,2000
- 3) 今田高俊、日本の階層システム5 社会階層のポストモダン、東京大学出版会、pp.7-8,2000
- 4) 小野善康、金融、岩波書店、1996
- 5) 平松登志樹、「性悪女」的水辺の魅力、日本民俗学、Vol.202,pp.122-128,1995
- 6) 平松登志樹、マーフィーの法則を用いた環境の認識手法の改善、土木学会環境システム研究、No.22,pp.78-83,1994
- 7) 平松登志樹、便益計測手法の適用と社会像の結び付きに関する一考察、土木学会環境システム研究、No.23,pp.303-306,1995
- 8) 平松登志樹、学生起業家育成の試み、土木計画学研究講演集、No.20(1),p91,1997
<http://133.15.5.124/ko1.html>
- 9) イミダス2001,p251
- 10) <http://133.15.5.124/social.html>
- 11) 肥田野登、入門社会工学、日本評論社、2000
- 12) <http://133.15.5.124/enkaku.html>
- 13) 平松登志樹、肥田野登、河川環境改善効果の計測手法の比較分析、土木計画学研究論文集、No.7,pp.107-114,1989
- 14) 肥田野登、環境と社会資本の経済評価、勁草書房、pp.71-79,1997
- 15) 平松登志樹、東京工業大学博士論文 家庭排水処理施設の整備方策の評価、1991
- 16) 平松登志樹、肥田野登、排水処理施設整備の費用便益分析、環境科学会誌、Vol.6,No.2,pp.97-110,1993

調査票

学生社長育成という試みは、どうだったでしょうか？面白かったですでしょうか？つまらなかったでしょうか？この試みに参加したことへの満足感に応じて支払うとしたら、その金額はいくらですか？参加しなければよかった、逆にお金をもらいたいくらいだと思ひの方は、その金額をマイナスの数字でお答えください。

円

実際にこの会社からいくらの利益を得ましたか 円
実際にこの会社からいくらの損失を被りましたか 円
年間の所得（税込み）をお答えください 円
学生の教育、今回の調査について御意見がありましたら、自由に御記入ください